

行政事業レビューシート (文部科学省)

予算事業名	大学病院連携型高度医療人養成推進事業	事業開始年度	平成20年度	作成責任者		
担当部局	高等教育局	担当課室	医学教育課大学病院支援室	大学病院支援室長 玉上 晃		
会計区分	一般会計	上位政策	「個性が輝く高等教育の振興」 「大学などにおける教育研究の質の向上」			
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	—	関係する計 画、通知等	—			
事業の目的 (目指す姿を簡 潔に。3行程度 以内)	大学病院と地域の複数の医療機関がそれぞれの得意分野を活かしながら、連携して若手医師(研修医)の教育・研修を行うことにより、高度な治療ができる医師(専門医や臨床研究者)を育て、国民に質の高い医療を提供する。 また、若手医師が研修の一環として地域の医療機関を循環することにより、地域の医師不足対策にも貢献する。					
事業概要 (5行程度以 内。別添可)	大学病院において、臨床経験豊富な指導者の配置、医療技術を向上させるための練習用シミュレーター(精密な人体模型など)の整備等を行い、複数の大学病院等が連携して相互に補い合いながら、充実した研修プログラムを実施することで、若手医師に高度な診療技術や専門知識を身につけさせる。 (補助率:定額補助)					
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・21大学病院(担当大学)で実施(連携大学も含めると78大学病院で実施)</li> <li>・平成21年度 研修医等実受入れ人数 7,279人</li> </ul>					
予算の状況 (単位:百万円)		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度要求
	予算額(補正後)	—	1,504	1,562	1,562	1,249
	執行額	—	1,514	1,549		
	執行率	—	100.7% ※1	99.2% ※2		
	総事業費(執行ベース)	—	1,669	1,759		
自己点検	支出先・ 用途の把 握水準・ 状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業年度毎に各大学から提出される実績報告書等において、各大学における支出先・用途を把握し、補助金の使用状況や事業目的との整合性について確認を行っている。</li> <li>・また、必要に応じて各大学に対する現地調査を実施したり、実績報告書等のみでは確認が不十分な場合に契約関係書類を別途個別に提出させる等により、各大学における支出先・用途の把握を万全のものとしている。</li> <li>・さらに、事業開始から3年目の平成22年度に外部委員による中間評価を行い、事業の実施状況をチェックする予定。</li> </ul>				
	見直しの 余地	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成22年6月に、中央教育審議会大学分科会大学行政部会において、国公立を通じた大学教育改革支援プログラムの事業の在り方について検証が行われ、「明確な教育目標、修得すべき知識・能力の体系を備えた学位プログラムを提供する取組への支援を強化」とともに、「社会的要請が高く、大学教育政策として優先順位が高いものを分かりやすく提示し、重点的に支援」、「他の競争的資金等との目的の違いを明確化すること」、「教育取組の成果・効果を図る指標の明確化」や、「成果や進捗状況を踏まえ、適宜、見直しを行う仕組みの構築」等が求められたことから、その見直しの方向性に即した事業の推進を検討して参りたい。</li> <li>・各大学の取組内容・成果について、文部科学省や大学のホームページへの掲載、各種フォーラムの開催等を通じて、全国の大学へ普及・展開を図っているところである。今後は、本事業の成果報告書の取りまとめや、検証を通じて、我が国全体としての大学改革に資するよう更なる成果の普及・展開等に努めて参りたい。</li> <li>・事業開始から3年目の平成22年度に外部委員による中間評価を行い、必要に応じてより多くの成果を引き出すための事業内容の見直し等を行う。</li> </ul>				
予算・監 査視 の・ 所 効 率 化	<p>1. 事業評価の観点：この事業は、大学病院と地域の複数の医療機関がそれぞれの得意分野を活かしながら、連携して若手医師の教育・研修を行うことにより、高度な治療ができる専門医や臨床研究者を育て、国民に質の高い医療を提供することを目的とした国公立大学に対する補助事業であり、事業の在り方の観点から検証を行う。</p> <p>2. 所見：本事業については、昨年度の事業仕分けにおける「大学の先端的取り組み支援」等の評価結果や大学行政部会での議論等を踏まえ、事業内容・成果等を検証し、その成果の普及に一層努めつつ、対象箇所数の絞り込みや経費の効率化などにより、予算を縮減すべきである。</p>					
補 記	<ul style="list-style-type: none"> <li>※1 重点的な支援の観点から年度内に10百万円を「社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム」から流用している。</li> <li>※2 執行を抑制し、年度内に11百万円を重点的な支援の観点から「周産期医療環境整備事業」へ流用している。</li> </ul>					

文部科学省  
1,549百万円

諸謝金 0.2百万円  
職員旅費 0.1百万円  
委員等旅費 0.1百万円

を含む

対象大学から申請のあった事業内容を審査の上、支援対象とする取組を選定し、補助金を交付する。

【公募・補助】

A. 大学(全21件)  
総額 1,549百万円

複数の大学病院等が連携して相互に補い合いながら、充実した研修プログラムを実施することで、若手医師に高度な診療技術や専門知識を身につけさせる。

【分担金】

B. 大学(全133件)  
706百万円

複数の大学病院等が連携して相互に補い合いながら、充実した研修プログラムを実施することで、若手医師に高度な診療技術や専門知識を身につけさせる。

資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を  
しているかについて補足する)  
(単位:百万円)

(東京医科歯科大学のケース)

A. 東京医科歯科大学  
90百万円

東京医科歯科大学病院は、秋田大学病院、島根大学病院と連携して、充実した研修プログラムを実施することで、若手医師に高度な診療技術や専門知識を身につけさせる。

【分担金】

B. 秋田大学・島根大学(全2件)  
54百万円

秋田大学  
27百万円

島根大学  
27百万円

秋田大学病院、東京医科歯科大学病院、島根大学病院の3大学が連携して、充実した研修プログラムを実施することで、若手医師に高度な診療技術や専門知識を身につけさせる。

A.東京医科歯科大学			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
分担金	秋田大学、島根大学への分担金	54			
物品購入費	内視鏡外科手術用トレーニングボックス、内視鏡手術トレーニングシミュレーター、噴門形成術モジュール等	13			
人件費	指導教員1人、事務補佐員2人、諸謝金	13			
消耗品費	研修用医療材料、書籍、ソフトウェア等	6			
旅費	国内旅費、外国旅費	3			
その他	印刷製本費等	1			
計		90	計		
B.秋田大学			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
消耗品費	内視鏡シミュレーターモジュールソフトウェア、キャリアセンター消耗品等	13			
人件費	指導教員1人、事務補佐員1人、諸謝金	10			
物品購入費	内視鏡手術トレーニングシミュレーター、新CVC穿刺挿入シミュレーター、腰椎・硬膜外穿刺シミュレーター等	2			
その他	旅費、印刷製本費、通信運搬費、借料等	2			
計		27	計		
C.			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計			計		
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計			計		

費目・使途  
 (「資金の流れ」  
 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。使途と費目の双方で実情が分かるように記載)

「複数支出先ブロック」の支出先一覧(上位10機関)

事業名: 大学病院連携型高度医療人養成推進事業  
(支出先ブロックA)

	支出先	支出額(百万円)
1	東京医科歯科大学	90
1	島根大学	90
1	北海道大学	90
1	筑波大学	90
5	名古屋大学	87
5	京都大学	87
5	慶應義塾大学	87
8	琉球大学	79
9	東北大学	77
9	新潟大学	77
	その他	695
合計		1,549